



矢玉四郎作「はれときどきぶた」(岩崎書店刊)より

畠山則安。9歳。小学3年生。

則安は同い年の子に較べて特別背が高かったり、低かったり、  
かけっこが速かったり、遅かったりするわけではない。

学校の成績が特別いいわけでもない。

でも、則安が人に自慢できることがある。

それは日記を書くこと。

でもその日記をこっそりお母さんが見ていたら…

君ならどうする？

脚本・演出／西上寛樹  
美術／本川東洋子  
音楽／庄子智一

劇中挿入歌詞〈もしも あめのかわりに〉村山篤子  
「村山篤子作品集」(JULA 出版局刊)より

出演／松本美里、森下勝史、来住野正雄

則安くんの書いた《あしたの日記》が次々に現実に。奇想天外なお話ですが原作の初刊から40年以上経った今、世界は何が変わり、逆に変わらないものは何なのでしょう。矢玉四郎さんも常にその時代のこども達をとらえシリーズとなりました。舞台では3人の人形遣いがボサノバギターのリズムに乗せ、絶妙なアンサンブルで軽妙な舞台を展開します。さあ、現代の畠山家は果たしてどんな世界にいるのか？そしてブタは降るのか？舞台では少しずつ不思議なことが起こりますが、驚きながら最後までご覧ください。